

Economics, Management & Information Science

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長

井本 伸

尾道市立大学の経済情報学部は、経済・経営・情報の3分野を同時に学ぶことを特徴としています。これは、「社会に求められるのは情報の基礎的知識や技能を有し、現代経済社会を的確な視点で把握できる人材である」との考えから、経済学を始め経営学や法律等の社会科学を深く理解しつつ、コンピュータを使いこなす能力を持つ人材の育成を目標としているためです。近年、多くの大学で文系分野に新しく情報系やデータサイエンス系のカリキュラムを横断的に導入した学科が作られていますが、本学は40年近く前から同様の理念に基づいて教育を行っています。

一般的に大学では、経済学部であれば経済学といったように、一つの専門分野に特化した学びが中心となるのに対し、本学では1・2年次に3分野を基礎から体系立てて修得することを重視しています。もちろん学生の中には「経営に興味はあるが経済や情報にはあまり関心がない」という人もいますが、本学では3分野を幅広く学ぶことを重視しています。そして3年次からは興味のある分野のコース（専門演習）に所属し、興味のある専門分野を深く探求していくことができます。入学時点ではどの分野に興味があるのかまだよく分からないという人もいます。そのような場合は3分野を一通り学んだ後、専門分野を選ぶこともできますし、またどの分野を学ぶかを決めていたとしても、学んでみて初めて分かる面白さというものもあるので、途中から他の分野に興味がわく人もいます。

学問というものはそれぞれが独立している訳ではなく相互に関連しているため、最終的に一つの分野を選択したとしても、他分野の基礎知識を学んだことは必ず力になります。

近年、卒業論文を課さない大学も増えていますが、本学では全員に対して少人数クラスによる論文指導を行っています。それは、大学における学びは主体的であることが重要だからです。主体的な学びとは、自分で「問い」を立て、その解決のために分析や調査を行い、その成果や主張を他者に説明、共有する過程を指します。ここで言う「問い」とは、高校までのように正解と解法があらかじめ用意されたものとは異なり、まだ正解が分からないものや、これまで誰も「問い」として扱っていないものも含まれます。実はこの主体的な学びの第一歩である「問いを立てる」ことが最も難しいのです。本学では、このような主体的な学びを最終的に卒業論文という形で結実させます。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原則を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適應するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能」

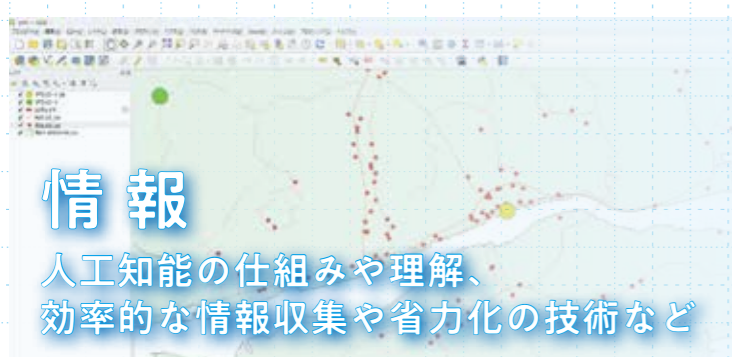
（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる
 - ②-a.「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能をふまえた思考力・判断力」
 - ②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」
 - ②-c.「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

中心的な活躍ができるジェネラリストに



現代社会では、文理複眼的な思考ができる人材が求められており、文系学生にも理系の素養が理系学生にも文系の素養が必要です。

例えば、
ビジネスとして成功する上での社会情勢の分析力、
資産管理の力、実務上必要な情報技術力などを
修めた人材を求められていますが、3分野を横断的に
学修できるのは、本学科の大きな魅力です。



経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を経営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



社会思想史、経済学史



経済コース長・教授
林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想=アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なベイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作=テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



公共経済学



経済コース・教授
荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にはどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にはどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理(完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である)の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。



マクロ経済学



経済コース・教授
井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体(マクロ)と個人(ミクロ)を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えているだけでは経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



応用ミクロ計量経済学



経済コース・教授
堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。

人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。



日本近世・近代の流通経済史



経済コース・教授
森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。

また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



環境経済学



経済コース・准教授
岡本 隼輔

環境経済学では、廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えていきます。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。

また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学修と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。



金融論



経済コース・准教授
神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。

ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



社会保障、社会政策



経済コース・准教授
佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



卒論報告会

主要専門科目 講義風景
経済学入門I (ミクロ)
(最適な資源配分や消費者行動に触れる
「小さい」経済学の基礎)



経営学は企業をはじめとする様々な組織について学ぶ学問領域です。ミクロ経済学においても企業を扱いますが、主に市場における企業の経済活動を分析します。対して経営学では、企業がヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を活用して生産活動を行う仕組みや、商品やサービスなどが消費される仕組みを分析します。したがって、経営学という学問領域では、それぞれの組織がどのように運営されるのか、どのような戦略を立て実行していくのか、その組織のリーダーがどのような行動をとると組織が活性化するのかなど、幅広く企業をはじめとする組織について探求していきます。

当経営コースでは、経営学に関する基礎的な知識と技法を学修するとともに、実社会で実践できるよう体系的に理解を深めるために、まず経営学の基本なる科目として、1年次に「経営学入門」や「簿記入門」などの科目を学修します。そのうえで、2年次以降に「経営組織論」、「経営戦略論」、「マーケティング論」、「財務会計論」、「管理会計論」など専門性の高い科目に加え、経営学にかかわりの深い法律として「企業法」や「租税論Ⅰ・Ⅱ」などを学修していきます。

さらに、本学部の特徴でもある、経済学や情報学を横断的に学修することにより、また国際的な視点を持ち「国際法」や「国際経営論」なども学修することにより、国際化や働き方改革がすすみ、消費者の価値観が変化していく社会において、経営学の視点から様々な経営課題を幅広く整理、分析、解決できる人材を育成します。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般における管理業務
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、運用



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか



経営コース長・教授
西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本の雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。



会計史、簿記、財務会計



経営コース・教授
津村 怜花

複式簿記は13~14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

授業や卒業論文等を通して、なぜ会計基準が変更したのか、今何が問題となっているのか等、一緒に歴史を踏まえて検討していきます。



健康とスポーツの科学



経営コース・教授
藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。

身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。



経営戦略論、経営組織論



経営コース・教授
横澤 幸宏

皆さんは、日々の生活や仕事のなかで常に意思決定を行っています。本研究室では、経営学という学問を通じて、企業経営や組織運営における人や組織の意思決定について学びます。特に、経営学のなかでも、経営戦略論、経営組織論、イノベーション論などの分野を中心に学び、企業が業績を高めるためにはどうしたらよいか、また個人や組織が目標を達成するためにはどうしたらよいかについて考えていきます。経営学で学ぶ経営理論は、企業経営だけでなく、日常生活においても幅広く応用することができます。経営学の研究を通じて、知識を学ぶとともに、自分の頭で考える習慣を身につけていただければと思います。



会社法



経営コース・准教授
王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



租税法



経営コース・准教授
北野 富士和

租税法とは、国や都道府県、市町村が税金をどのように集めるかを定めた法律の分野です。税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人は生きていくために日々様々な取引を行っていますが、その取引のすべてが税法と関わっています。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか。租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。アルバイトの所得税、消費税など、私たちの身近なところにある税を通して、社会を見る視点を一緒に身につけていきましょう。



経営・産業の情報化、経済社会学、情報社会論



経営コース・講師
金 信行

科学技術と経済・経営・社会との相互作用を研究しています。私たちの日常生活はさまざまな科学技術に支えられて成り立っています。例えばパソコンや携帯電話をまったく使わない生活などは、現代社会ではなかなか想像できないのではないのでしょうか。日常生活の場面から離れると、人工知能や仮想通貨といった先端情報技術は社会のあり方に大きな影響を与えるものであり、またこうした先端科学技術には開発者による社会変革の意図が埋め込まれていたりします。私はこのように科学技術と社会が互いに影響を与えて成り立っていることを焦点化した理論的視座を基に、先端科学技術の開発運用過程で生じる法的・倫理的・社会的課題(ELSI)の分析に取り組んでいます。

私のゼミではこうした経営・産業・社会の情報化を背景としつつ、労働・産業の領域における社会現象や社会問題が、社会的な営みとしてどのように成立しているかを探究しています。



国際法、安全保障論



経営コース・講師
吉良 悟

武力行使の規律、自衛権を研究しています。今日、自衛権は、国家が単独で武力を行使する際のほぼ唯一の法的根拠になっています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻も、ロシアは自衛権を根拠としました。残念ながら、国際社会から武力紛争をなくすことは、いまだ現実的ではありません。しかし、武力行使を規律する試みは意味を持ち続けます。自衛権を考えるということは、武力紛争の機会を減らすことに繋がります。ゼミナールでは、国際法、日本国憲法を軸に、国際紛争に関する法的問題や日本の安全をいかに確保するのかを議論します。



管理会計、コストマネジメント



経営コース・講師
田中 政旭

管理会計は、主に2つの役割があります。1つは、企業の目的や戦略の実行をしていくために、組織構成員がバラバラにならないように取りまとめていく役割です。もう1つは、マネジャーが意思決定する際に役立つ情報を提供する役割です。どちらの役割も、企業が自分たちの目的や目標を実現する上で、重要なものです。

本研究室では、上記の役割を果たす管理会計をどのように設計をすれば、期待した効果が得られるか、また逆に負の効果がもたらされるのかについて研究しています。そして、そうした研究によって、学術的含意と実践的含意の両方を提供することを目指しています。



マーケティング、消費者行動



経営コース・講師
渡邊 久晃

専門はマーケティングで、なかでも消費者の購買・消費・処分まつわる意思決定について研究する消費者行動と呼ばれる領域に関心があります。私たち消費者は普段、製品やサービスを購入するとき、常に経済合理性を意識しているわけではなく、何気なく購買することのほうが多いと思います。そうした意思決定では認知や感情、感覚といった様々な心理的要因が影響しています。本研究室では、消費者行動の背後にある心理的メカニズムについて研究することで、マーケティング的な諸課題に対して示唆や含意を提供することを目指します。



早期履修制度

経済情報学部では、本学大学院に進学を考えている学生のために大学院科目を早期履修する制度があります。

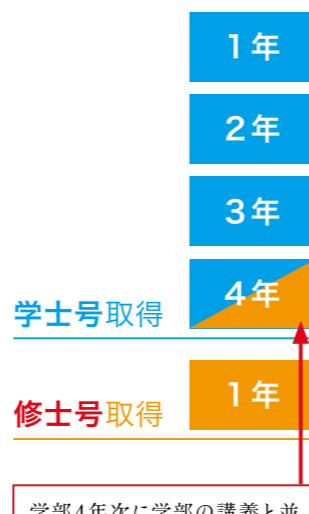
修士号の学位を取得するには、通常学部4年間に加え、修士課程2年間、合計6年間の学修が必要になります。当該制度を利用すると、学部4年間に加え、修士課程1年間の合計5年間で修士号の学位を取得することが可能となります。これを利用して、例えば、税理士試験の科目免除の論文指導を受けたり、高度な専門知識を有して教育分野や水産加工業分野で活躍する、といった学生がいます。

経済を動かす主体である産業、企業の現場では、日々新たな問題に直面しています。膨大になるデータベースへの対応、人力から機械への代替、それに伴う専門的かつ高度な知識、そうした力が要求されるようになってきています。文部科学省も大学院への進学および修了者の積極的な採用を推奨しています。

学位取得までの経過 (通常)



学位取得までの経過 (早期履修制度活用)



学部4年次に学部の講義と並行して、大学院1年次の講義を受講することができます。

高難度の国家資格である「公認会計士試験」に挑戦する学生もいます。

高難度資格のための勉強は、長期間に渡る持続的な学習が不可欠です。

翠明館などの施設をはじめ、集中して勉強に打ち込める環境が十分に整っている本学の体制は、学生の夢の実現に向けた一助を担っています。

令和7年公認会計士試験
論文式試験

願書出願者数：22,056人 合格率：7.4%

令和7年公認会計士試験
第1回短答式試験

願書出願者数：15,990人
合格率：8.6%

合格率：最終合格者数ないし短答式試験合格者数を願書出願者数で除して算出



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

川崎 歩夢

岡山県立玉島高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

高校までの学習内容とは一味違う簿記やITパスポートなどのビジネス関連資格に興味を持ち、さらに専門的な知識や経験を身に付けたいと思ったからです。



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

大森 輝

岡山県立西大寺高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

大学で何かをやり遂げたいと考えたときに、特に難しいとされる公認会計士が目に残りました。「公認会計士」という名前には憧れたこともあってチャレンジすることにしました。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

会計系の講義科目が豊富で、試験対策だけではなく深い内容を学ぶことができました。経済系や情報系の講義も卒業後のキャリアには必要なので、充実していました。

また、大学にある自習室が利用しやすく、集中して勉強ができる環境なので、とてもおすすめです。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

公認会計士は決して簡単な資格ではないので、諦めずに勉強を継続する精神力や覚悟が大切です。

また、合格したという経験はこれから先の人生で困難に直面した場合でも揺るがない自信になるので、興味がある方や何かやりたいと考えている人は、勇気をもって挑戦してほしいと思います。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

試験対策をしていると結論だけを暗記するケースが多いのですが、大学の講義では考え方のプロセスや裏側を知ることができて、予備校などでの授業とはまた違った楽しさがありました。大学の施設では、夜間や休日でも利用できる自習室を大いに活用していました。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

受験しないで挑戦をやめてしまう方もいるので、まずは短答式試験を受験することを目標にして頑張ってください。

一定期間の勉強を続ける、試験を申し込む、実際に試験を受ける、結果を自己採点するという形でステップアップを目指してください。

情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット（経済）とビジネス（経営）が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思えます。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済経営情報実習」などの科目があります。

想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮



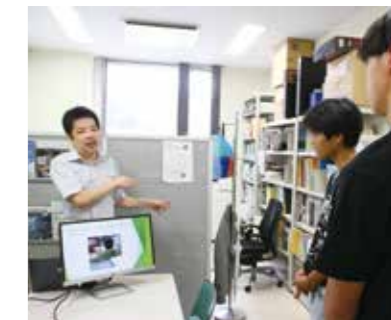
情報ネットワーク、機械学習



情報コース長・教授
本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。

情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、機械学習を利用して様々なデータを分析したり、機械学習の出力の多様性などを扱っています。



情報システム設計ほか



情報コース・教授
有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。



観光の支援に役立つデータベース連携型 Web システムの開発



情報コース・教授
高山 毅

観光立国ニッポンがコロナ後に進展する中で、インバウンドを中心として過剰に観光客が訪れることに伴う「オーバーツーリズム」が問題となっています。高山ゼミでは、観光を顧客側/事業者側の双方で支援するシステムを開発を行います。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を修得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を溜め、社会で実際に役立ち得るシステムを開発します。



数学教育、情報教育



情報コース・教授
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科や学問分野間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材を作ったりします。楕円コンパスを実際に作成し、その動作を数学で解析しプログラムで表現したりします。最近、ICT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。教育のわかるIT技術者になってみませんか？



ビッグデータ、人工知能



情報コース・准教授
木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。

最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



宇宙論 / 理論物理学

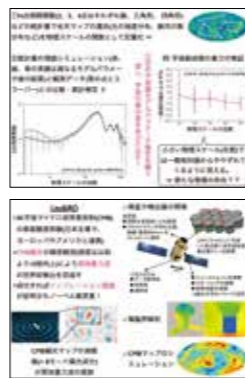


情報コース・准教授
白石 希典

宇宙はいつ生まれ、400億光年先まで広がる構造の種はどのように仕込まれたのでしょうか？宇宙のエネルギーの実に95%を占めるダークマター、ダークエネルギーとは何なのでしょう？

標準宇宙モデルでは説明できないこれらの難問は、新たな物理を示唆するものなのかもしれません。アクションや高スピン場など未知の素粒子を導入すれば、あるいは、重力理論をアインシュタインの一般相対論から修正/拡張すれば、これらの難問に(同時に)うまく答えられることがあります。3K宇宙マイクロ波背景放射(CMB)や銀河などの観測データから宇宙論情報を時系列的に抽出することによって、新たな物理の可能性を徹底調査し、真の宇宙像に迫っています(1つめの図参照)。

また、日本が主導するCMB衛星観測実験の国際プロジェクト「LiteBIRD」に参画しており、宇宙創成を記述する「インフレーション理論」のsmoking gunと言われる原始重力波の発見とその出所の特定を目指して研究しています(2つめの図参照)。



解析的整数論



情報コース・准教授
宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で
$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$
 という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題(懸賞金100万ドル)が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100万ドル)
 $\zeta(s) = 0$ ($0 < \text{Re}(s) < 1$) ならば $\text{Re}(s) = \frac{1}{2}$ である (?)

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。



遺伝的プログラミングを用いた解釈可能 AI の開発



情報コース・講師
秋川 元宏

本ゼミでは深層学習を含む、人工知能全般についての研究を展開しています。人工知能技術は現在様々なサービスと組み合わせられており、すでに我々の日常に溶け込んでいます。如何に人工技術を経済活動へ組み込んでいけるかを基礎から応用まで幅広く取り扱います。また、人工知能技術の安全性はこれから重要な研究分野となります。そのため、近年は複雑化している人工知能技術を安全に用いるための研究を特に推し進めています。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)認定

本学部は、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定(応用基礎レベル)」を受けています。中国ブロックで同認定を受けている数少ない学部の一つです。今後の社会生活で必要となる、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を修得できる教育プログラムを開発しています。

「機械学習と人工知能」「ビッグデータ活用」といった講義科目の履修を通じて、情報技術の活用・応用に関する修了証が発行されます。



2025年度卒業論文(各ゼミナールの代表論文)

- マーケットメイカーとしての画商の誕生
- 睡眠管理Webアプリケーションの設計と評価
～睡眠スコアと可視化による自己認識向上～
- 生成AIに関する各新聞社の報道傾向について
- 地方創生についての地方の取組
- 尾道市通行量調査の可視化と考察
- 新NISA制度の政策効果の実証分析
- 五島市の経済循環について
- 商品画像ビッグデータのクラスタリングによる推薦システム
- メタバースを用いた、観光者に防災事前学習を提供するシステム
- 海外産ゲームの日本市場向けローカライズ手法の研究
- 機能性商品の開発は文具業界を救うのか？
—コクヨとパイロットの財務諸表分析に基づく—考察—

- 内容スキーマに着目したプログラミング題材の個別最適化システムの開発
- フォイエールパツハからマルクスを読み解く
—なぜ「宗教は民衆の阿片」か—
- 消費税の仕入税額控除における帳簿要件等の問題点の検討—インボイス制度の導入後も踏まえて—
- 戦争遺跡の現状と今後の展望
—フィールドワークによる検証から—
- Z世代におけるレトロ消費の要因に関する研究



すべての
卒業論文タイトルは
こちら



経済コース卒論発表

「尾道市通行量調査の可視化と考察」

岡本ゼミ 小嶋 裕宇

本研究では、尾道市が3年に一度行っている通行量調査の結果を元に、カーネル密度推定法という手法を用いて、尾道市の商店街である『尾道本通り商店街』を中心に、尾道市街地における人々の回遊状況の可視化を行いました。具体的には、各地点で計測された通行量の数字を元に、市街地全体の通行量をヒートマップの形で表現しています。

今後、徒歩だけでなく車や公共交通機関の利用など、用いる交通手段なども考慮に入れた尾道市内の回遊状況を把握することの重要性を示唆し本論文の分析結果としました。



経営コース卒論発表

「ゲオHDとハードオフの財務諸表分析に見る店舗拡大戦略の相違点」

津村ゼミ 藤原 創太

本研究では、ゲオHDとハードオフを取り上げ、店舗網の拡大が経営成績に寄与しているのか、出店コストとのバランスが取れているかを考察しました。

財務諸表分析の結果、ゲオHDに比べ、ハードオフの方が収益性、安全性がともに高いことが明らかになりました。ゲオHDは同業他社に売上高では2倍以上の差をつけているがハードオフに比べると利益率は低いこと、ゲオHDでは祖業であるレンタル市場の急減によるリユース店舗拡大が負債依存度を高めていること等が明らかになりました。



情報コース卒論発表

「内容スキーマに着目したプログラミング題材の個別最適化システムの開発」

南郷ゼミ 山本 晃大

プログラミングは、何らかの題材に沿って制作することを通して学ぶことがあります。この手法は、英語学習などの第二言語習得の中で行われる作文課題と似ている部分があります。

そこで本研究では、プログラミング学習の題材を学習者に最適化させるシステムを提案しました。結果としては、問題文の質・最適化の精度の両面で不安定さがみられました。一方で、良好な加工も確認され、大規模言語モデルによる加工によって実現可能であることを示唆する結果が得られました。今後の課題として、加工精度の向上・安定化などが挙げられます。



経済情報学部の卒業生が働いている分野は、多岐に渡ります。

- 経済コースで金融、地方財政、マクロ経済学などを通じて学んだことを銀行、公務、不動産、社会インフラなどの分野に
- 経営コースで組織論、簿記、マーケティングなどを通じて学んだことを税務関係、物流、教職、宿泊サービスなどの分野に
- 情報コースでデータベース、人工知能、アプリ開発などを通じて学んだことをソフトウェア開発、情報通信業、社内システム管理などの分野に

といった形で、在学中に学んだことを活かしながら、社会に貢献しています。

例えば、情報コースに所属して専門的なスキルを磨きつつ、金融、産業、社会保障など経済の仕組み、組織運営、会計情報をはじめとした経営の知識を取り入れる、といったことが可能なのは、3分野を横断的に学べる本学部の強みです。こうした強みは、社会に羽ばたいていく際の大きな力になります。



しまなみ信用金庫

藤井 菜吏

2023年度卒／経済コース

出身校：

広島県立福山明王台高等学校



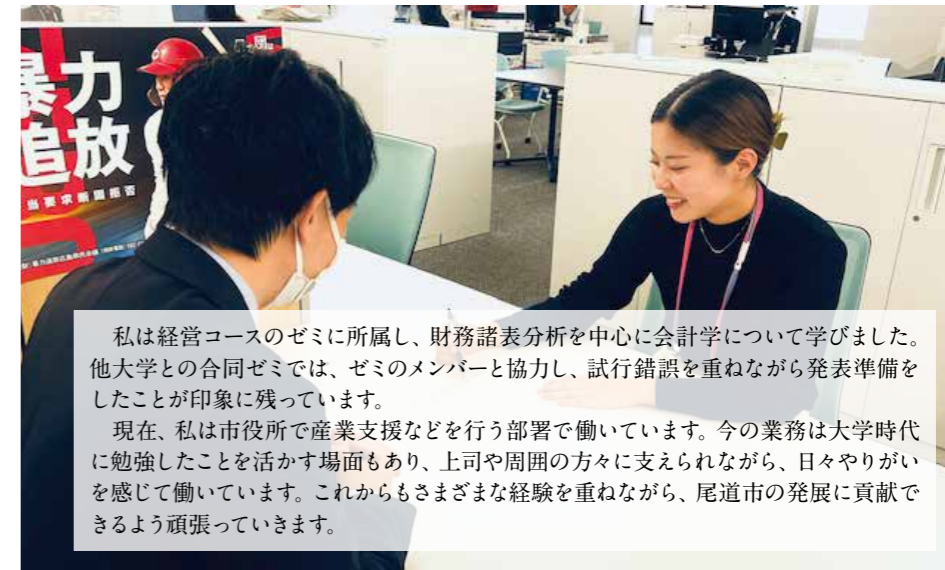
尾道市役所

小野 可湖

2023年度卒／経営コース

出身校：

岡山県立玉島高等学校



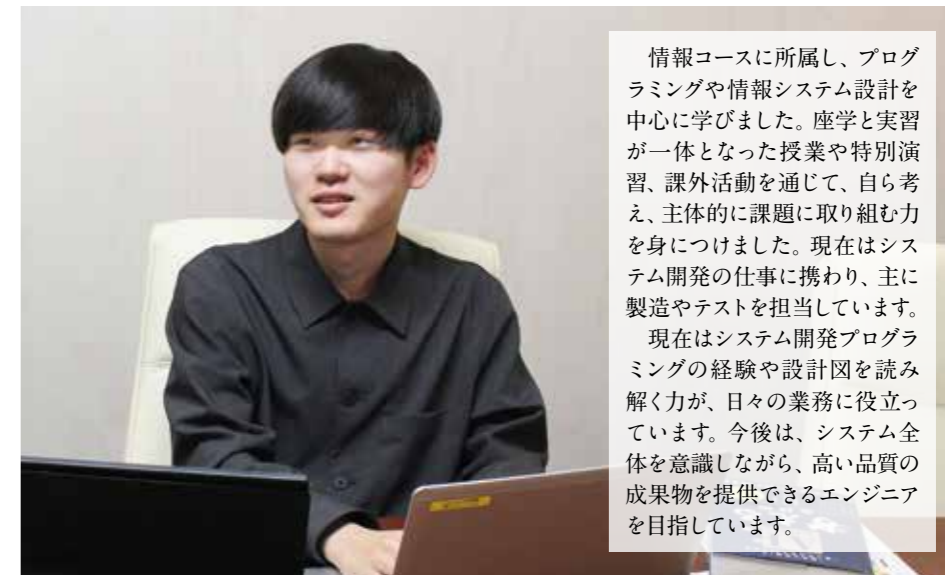
アイピーシステム株式会社

浅原 幸誠

2023年度卒／情報コース

出身校：

岡山県立玉島高等学校



地域連携

経済情報学部は、地域の企業などとの連携を深め、地域に貢献できる人材育成や、研究活動の浸透、将来を見据えた協働などに努めています。



株式会社広島銀行様による金融教育 「金融リテラシー講座」

生活設計や家計管理といった内容に加え、将来に備えてお金を育てる必要性や、その方法である資産運用についても説明していただきました。特に、資産運用の説明としても耳にする「リスク」は投資の難しさや危うさをイメージする言葉として捉えがちですが、運用成果における振れ幅を意味する、といったことも学びました。実際に企業で働く方々の生の声は、将来の選択を行う学生にとって非常に有意義です。



尾道市役所商工課様からの 通行量調査に関する報告書作成依頼

尾道市は、3年に1度、市内の重点的なポイントで人の流れがどのようにになっているかの調査を行い、数値データを公表しています。この統計をもとに、今後の観光や人のためにどのような考察をしていくかを、受託研究という形で本学の学生が執筆しています。



尾道市議会主催 「尾道市学生議会」への参加

「尾道市学生議会」は令和4年度から尾道市議会が主催しており、尾道市立大学や尾道市内8高校から学生代表者が集って開催されました。

当日は学生議員が議長を務める中で、学生議員が行った市政に関する質問に対して市議会議員が答弁するといった一般質問が行われました。

本学学生からは尾道駅周辺における学習スペースの設置要望や、空き家や小学校跡地の活用に関する質問が出され、実際の市議会さながらに進行されました。その後は学生議員と市議会議員で意見交換を行うなど、今後の尾道市政や地域とのつながりを考える貴重な一日となりました。



株式会社プロシード様による金融教育 「出張マネー講座～人生とお金～」

尾道市内を起点にファイナンシャル・プランナーとして活躍なさっている加藤雄大氏より、「人生の三大資金とは」をテーマに講演いただきました。これから訪れるであろうライフステージの変化に伴う様々な費用や資産形成等を丁寧に解説していただきました。



地域貢献

経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の特徴を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。



尾道市内における
デジタル技術を活用した人流データの分析



木村・本田研究室受託研究
「AIを用いた水産塩干物製造における異物選別」



尾道を中心とした
文化・経済・歴史に関するフィールドワーク



プログラミング体験教室のサポート風景
(尾道市役所)

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができます。経済情報学科は他の2学科に比べて人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習(ゼミ)も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応じて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



研究発表の様子



E棟ラウンジでの自習風景



尾道市水道局へのヒアリング調査



廃棄物処理場の見学

少人数教育・ゼミ活動